

いじめ防止基本方針

令和4年4月改訂
赤穂市立尾崎小学校

1 いじめ防止等の基本的な考え方

(1) いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行うものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法第2条より）

(2) いじめに対する基本認識

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に危険を生じさせるおそれがあるものであり、人として決して許されない行為であるという、いじめに対する認識を全教職員で共有する。いじめ防止対策推進法第4条では、「児童等は、いじめを行ってはならない。」（いじめの禁止）と規定されている。

いじめは、どこの学校・学級でも起こり得るものであり、いじめ問題に全く無関係ですむ児童等はいないという共通認識に立ち、児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われなくなるようにするため、いじめ防止対策推進法第8条に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組む。以下はいじめについての基本的な認識である。

- ①いじめは、どの子どもにもどの学校でも起こり得るものである。
- ②いじめは人権侵害であり、人として決して許される行為ではない。
- ③いじめは大人には気づきにくいところで行われることが多く発見しにくい。
- ④嫌がらせやいじわる等、多くの児童生徒が入れ替わりながら加害も被害も経験する。
- ⑤暴力を伴わないいじめであっても、繰り返されたり、集中的に行われたりすることにより生命、身体に重大な危険が生じる。
- ⑥いじめは、その態様により暴行、恐喝、強要等の刑罰法規に抵触する。
- ⑦いじめでは、加害・被害の二者関係だけでなく、いじめを助長する観衆、いじめに暗黙の了解を与えてしまう傍観者も存在する。この傍観者から仲裁者への転換を促すことが重要である。

(3) 学校及び学校の教職員の責務

学校及び学校の教職員は、当該学校に在籍する児童の保護者、地域住民、児童相談所その他の関係者との連携を図りつつ、学校全体でいじめ未然防止及び早期発見に取り組むとともに当該学校に在籍する児童等がいじめを受けていると思われるときは、適切かつ迅速にこれに対処する責務を有する。

2 いじめ防止対策のための校内組織

いじめの問題に組織的に取り組むために、校長、教頭、生徒指導、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラー、その他関係職員による「いじめ防止対策委員会」を設置する。この組織を中心に全教職員の共通理解の下、学校全体で総合的ないじめ対策を行う。

さらに、本方針に基づく取組の実行、進捗状況、校内組織の機能について定期的に点検・評価を行う。

また、いじめ等が発見された場合は、いじめ防止対策委員会及び職員会議を臨時に開催し、早期対応にあたる。

3 未然防止

(1) 個性や可能性を伸長する授業の充実

児童の能力・適正や興味関心に応じた学習活動を推進し、主体的に学校行事や授業に参加することを通じて、個性や可能性の伸長を図る。

(2) 道徳教育の充実

「兵庫版道徳教育副読本」等を活用した授業など道徳教育を充実させ、児童生徒の社会性や規範意識、思いやりなどの豊かな心を育む。

(3) 人権教育の充実

「いじめを許さない人権教育教材」等を活用し、人の痛みを思いやることができるよう、人権教育の基盤である生命尊重の精神や人権感覚を育む。

(4) 体験活動の充実

他者、社会、自然との直接的なかかわりの中で体験活動を体系的に実施し、自分の役割を自覚する中で、自己有用感等を高める。また、地域住民や保護者等、多くの大人に支えられる体験を通して、児童生徒の自信や意欲、感謝する心など豊かな心を育成する。

(5) 学級経営の充実

学級活動、児童会等でいじめ防止の活動を自分たちで考え実施する主体的な活動を進め、集団の一員としての自覚や自信を育む。また、互いのよさを見つけたり、考え方の違いに気付かせたりする活動を取り入れ、互いに認め合える人間関係づくりを進め、児童の自己有用感や自尊感情を育む。

(6) 校内研修の充実

いじめ対応マニュアル等を活用した校内研修やいじめの事例研究等により、いじめの防止、いじめの早期発見・早期対応について、教職員の共通理解と対応能力の向上を図る。また、児童生徒を傷つけたり、他の児童生徒によるいじめを助長させたりすることがないように、言葉遣いを含め言動に注意を払うとともに、配慮を要する児童を中心に据えた教育活動を展開する。

いじめの防止と対応については、一人一人が認め合い、高め合える授業実践のための研修会を年間計画の中に位置づけて実施する。また、赤穂東中学校校区校園所で連携しながら、年1回、PTAと共に子どもの発達段階に合わせた指導方法や家庭教育の在り方等に関する研修を行う。

4 早期発見

(1) アンケート調査の実施

毎月と毎学期末に児童に対するアンケートを実施する。

(2) 日記や連絡帳の活用および家庭訪問

児童や保護者との連絡を密にする。気になることがあるときは家庭訪問をする。

(3) いじめ防止に関する研修の実施

日々の観察の仕方などを研修し、いじめ防止に関する教職員の資質の向上を図る。

5 早期対応

(1) 教職員は、いじめと思われる行為を見つけたら、速やかに管理職に報告し、内容を記録する。
(報告の義務、記録)

(2) 校長は、速やかにいじめ防止対策委員会を立ち上げ、いじめの事実の確認を行うための措置を講じ、その結果を教育委員会に報告する。

(3) いじめの事実が確認された場合は職員会議を行い、学校として情報の共有を図り、チーム学校として組織的に対応にあたる。いじめをやめさせその再発を防止するために、いじめを受けた児童・保護者に対する支援と、いじめを行った児童に対する指導とその保護者に対する助言を継続的に行う。

(情報の共有化、組織的な対応)

(4) 校長は、必要があると認めるときは、いじめを行った児童に対して、いじめられた児童が安心して教育を受けるために必要な措置を講ずる。

(5) 犯罪行為として取り扱うべきいじめについては、警察と連携して対処し、児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに警察署に通報し援助を求める。

6 重大事態への対応

(1) 重大事態の定義

①いじめにより児童の生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。

ア 児童等が自殺を企画した場合

イ 身体に重大な障害を負った場合

ウ 金品等に重大な被害を被った場合

エ 精神性の疾患を発症した場合等

②いじめにより児童等が相当期間（年間30日以上）学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

③児童等や保護者から、いじめられて重大な事態に至ったという申し立てがあったとき。

(2) 重大事態への対応

- ①学校は、重大な事態が発生した場合、教育委員会へ事態発生について報告する。
- ②教育委員会の判断により学校が主体となって事態の調査にあたる場合は、学校の下に調査組織を設置し、事実関係を明確にするための調査を実施する。
- ③いじめを受けた児童等及びその保護者に対して適切に情報を提供する。
- ④調査結果を教育委員会に報告し、調査結果を踏まえた必要な措置をとる。
※教育委員会が調査主体となる場合は、資料の提出など調査に協力する。

7 いじめ防止行動プラン

(1) 確かな学力の向上

- ①具体的な学級目標の設定（4月）
- ②学習集団としての規律の定着<支持的風土づくり>（4月）
- ③朝読書と放課後の学習タイム（年間）
- ④兵庫型教科担任制の展開（年間）
- ⑤授業公開の実施（学年の枠を越えた公開）（年間）
- ⑥授業づくりでの協同研究の実施（年間）
- ⑦①～⑥の点検と改善の実施（7・12・3月）

(2) 連携教育の推進

- ①定例の7校園所長会の実施（2ヶ月1回）
- ②早寝早起き朝ごはん運動の啓発と展開（年間）
- ③幼保小との生活体験と学習交流の実施（年間カリキュラムによる）
- ④幼小・小中の授業交流と行事交流の実施（年間）
- ⑤①～④の点検と改善の実施（7・12・3月）

(3) 教職力の向上

- ①初任者指導と支援の実施（ベテラン教師による）（年間）
- ②若年教師への授業訪問と指導（校長による）（毎週）
- ③校内研修の推進（随時）
- ④綱紀粛正と服務規律の確保等の研修（7・12・3月）

(4) 学校組織の活性化と業務改善

- ①意思疎通を図るためのコミュニケーション（年間）
- ②新対策プランへの重点取組（年間）
- ③校務の効率化と校務分掌の工夫（4月）
- ④報告・連絡・相談の徹底（年間）

(5) 人権・道徳教育の充実

- ①美しい学校環境の整備（年間）
- ②人権教育の授業実践（年間）
- ③人権教育推進上の基本事項の徹底（年間）
- ④道徳的実践力を培う体験活動の実施（随時）
- ⑤PTAと連携したあいさつ運動の展開（6・11・2月）
- ⑥人権教育の研修会開催（随時）

(6) 特別支援教育の深化・充実

- ①個別の教育支援計画に基づく指導の実施（年間）
- ②配慮を要する児童への指導の実施（年間）
- ③個別の指導計画とカルテの見直し（4・8・12月）
- ④配慮を要する児童の保護者との面談（随時）
- ⑤①～④の評価と改善（7・12・3月）

(7) いじめ等発生防止の推進

- ①学校・学級の居場所づくりの推進（年間）
- ②児童会によるスマイル班での活動（年間）
- ③校内委員会での情報の共有化（毎月）
- ④いじめ調査の実施（毎月）
- ⑤いじめに関する研修会の実施（随時）
- ⑥いじめ防止対策委員会の設置（随時）
- ⑦ネットリテラシー研修（7月・12月）
- ⑧①～⑧の検証と改善（7・12・3月）

(8) 新たな不登校（長欠）児童をつくらない取組

- ①連続2日欠席者宅への訪問（年間）
- ②不登校傾向児童の居場所の整備と運営（年間）
- ③スクールカウンセラーと情報の共有化の推進（毎月）
- ④いじめ行動計画の推進（年間）
- ⑤特に配慮を要する児童の保護者と面談（7・12・2月）
- ⑥①～⑤の検証と改善（7・12・3月）

(9) 生徒指導の充実

- ①品性教育の推進（年間）
- ②校内・校外生活の決まりの徹底（年間）
- ③保護者や地域、関係機関とのつながり強化（年間）
- ④スクールカウンセラーによる研修会の実施（適時）

(10) 体力の向上

- ①基本的な生活習慣の確立のための啓発（毎月）
- ②早寝早起き朝ごはん運動の啓発と展開（年間）
- ③体力づくりの奨励（朝マラソン）
- ④学級の遊びの日の設定と奨励（年間）
- ⑤健康診断に治療の督促と奨励（7・10・1月）
- ⑥学校保健委員会開催の充実（2月）

8 学校評価

学校の教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、より良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準の向上と保証を図ることが重要である。また、学校運営の質に対する保護者等の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たすとともに学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進を図ることが期待される。これらのことから、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く保護者等に公表していくことが求められる。

(1) 教職員による自己評価

いじめ防止行動プランに基づき、学期末に自己評価を行い、計画の見直しや改善を図る。

(2) 児童アンケート

毎月と学期末に学習や生活の様子を振り返るアンケートを実施する。緊急性のあ
る事案については、個別に聞き取り調査を行い早期に対応する。

(3) 学校関係者評価

学校行事の際にアンケート調査を行い、定期的に情報収集を行う。また、年度末
には学校の教育活動全般についてのアンケートを実施し、学校評議委員会におい
て教育活動や各評価について意見交換し、その結果と改善プランを公表する。

9 家庭・地域への啓発・連携

「地域の子どもは、地域で育てる」という考えの下、赤穂東中学校区の校園所が
連携しながら、共通の合い言葉として「あいさつの声が響く街」「思いやりの心が
あふれる街」を掲げ、定期的に啓発チラシを配布したり情報交換の場を設定したり
して健全育成に取り組んでいく。

また、インターネット上での誹謗中傷、SNSやメール、ポータブルゲーム機で
のトラブルの予防には、家庭の理解と協力が不可欠である。そのため、専門家によ
る研修会を開き、児童や保護者への啓発と情報活用能力の向上を図る。

(1) 家庭との連携

- ①保護者の気持ちや考え方に謙虚に耳を傾け、学校の考え方を一方的に押しつけ
ることなく、協力して解決に当たるという姿勢を持つ。
- ②いじめの事実関係などの情報を正確に伝え、学校の取組の様子が理解されるよ
うに心がける。
- ③児童の交友関係、生活の様子などについて、常に情報交換ができる雰囲気をつ
くる。
- ④家庭のプライバシーの保護には十分留意する。
- ⑤児童に変わった兆候があれば、すぐ保護者に連絡をするなどきめ細かに対応す
る。

(2) 地域との連携

- ①地域の人々との懇談会や地域行事を通して協力体制を築き、いじめの早期発見
に努める。
- ②学校行事に地域の人々の積極的な参加を求めると同時に、地域の教育力を生か
す活動を実施し、日ごろから「開かれた学校づくり」に心がける。
- ③地域の人々からの情報を大切にするとともに、すみやかに対応する。

(3) 関係機関との連携

- ①日ごろから指導・助言を得たり、情報交換を行ったりして協力関係を築く。
- ②相談機関との連絡窓口を明確にし、その係と学級担任や保護者との連絡を密に
する。
- ③相談の内容や学校の方針について、いじめ・不登校対策委員会等が中心となっ
て共通理解を図る。

子どもたちへ

- いじめや暴力という卑劣ではずかしい行為を絶対にしてはいけません。
- いじめや暴力を受けてつらいとき・苦しいときは、一人で悩まず、家族や先生、友だちに相談しよう。
- いじめや暴力を見て見ぬふりをするのは、いじめを許すことにつながります。
- いじめや暴力を見かけたときは、すぐに先生や家族に連絡しよう。

【 こんなときがあったら、連絡しよう 】

- ◇掃除などの作業を最後まで一人でやらされている。
- ◇休み時間などに一人で寂しそうにしている。
- ◇くつや持ち物をかくされている。など

保護者の皆様へ

- いじめや暴力は、決して許されることではないということを子どもに伝えてください。
- 「あなたの味方である」という気持ちを子どもに伝えてください。
- コンピュータ・スマートフォン・ゲーム機の使用について、子どもとの約束づくりをしてください。特に SNS 等の使い方の尾崎小五箇条を守るよう伝えてください。
 - 1、宿題を終わらせてから、夜8時まで
 - 2、課金をしない。（保護者と相談）
 - 3、人の悪口は書かない
 - 4、自分や友達の個人情報（名前、住所、写真など）は漏らさない。
 - 5、知らない人とメッセージのやりとりをしない。
- いじめや暴力を発見するために、子どもの言葉や表情などの「小さなサイン」に注意してください。

【 こんなサインに注意してください 】

- ◇家族との会話が少なくなり、学校の話話をさける。
- ◇家から金銭を持ち出したり、買い与えられた物がなくなったりする。
- ◇わけもなく衣服が汚れたり、破れたりしている。 など

地域の皆様へ

- 多くの大人の目で子ども達を見守ってください。
- あいさつ運動などを通して、やさしい心を育ててください。
- 「弱い者いじめ」をしない心や下級生を助けるなどの思いやりの心を育ててください。
- 学校へお越しいただくなど色々な機会を利用して、子ども達に接してください。

【 こんな子どもを見かけたら、学校に連絡してください 】

- ◇他の子どもと離れて登下校する。
- ◇友だちの荷物を持たされて登下校する。
- ◇公園などでおやつなどをたかられている。など

☆ 資料 (チェックシート)

■その1 日々の学級経営を見直すチェックポイント (学級担任用)

【教師の言動】

- 子どもの言い分に耳を傾けている。
- 子どものよさを見つけようとしている。
- 人に迷惑をかける行動には、毅然とした態度で対応している。
- えこひいきや差別をせずに子どもに接している。
- やたらと競争意識をあおったり、個人の責任を集団に押しついたりすることがない。
- 個人のプライバシーを守っている。
- 一日に一回は会話をするなど、どの子どもともかかわり合いをもっている。
- 教師自身が児童生徒を傷つけたり、いじめを助長したりするような言動をしない。

【授業時間・学級活動】

- わかりやすい授業、充実感のもてる活動が行われている。
- どの子どもの発言にも、全員が耳を傾けている。
- 困ったことを話題にし、本音を出して考え合う雰囲気ができている。
- 朝の会、終わりの会が内容豊かで、生き生きと運営されている。
- リーダーに協力する支援体制ができている。
- 係が積極的に活動し、新しい試みを取り入れようとしている。

【日々の生活】

- 誤りを認め、許し合える雰囲気がある。
- 教室に笑い声が響き、明るい雰囲気がある。
- 学級の小集団が閉鎖的でなく、互いに交流がある。
- 給食時に和やかな雰囲気があり、清掃や係活動等で公平に仕事がされている。

【教員同士の連携・保護者との連携】

- 学年会や他の会議で、子どもの様子を情報交換できる場が確保されている。
- 日頃から職員室に、子どもや学級の様子を気楽に話題にできるムードがある。
- 学年だよりや学級だよりなどで、学年・学級の取組の様子が保護者に理解されている。
- 日頃から、個々の子どもの様子を保護者と連絡し合えるシステムが確立されている。
- いじめ等の問題について、保護者の訴えに謙虚に耳を傾け、正確に情報提供している。

※子どもたちは、学校のすべての場で学んでいます。学校全体の方針のもと、学年等で情報交換を密にし、教職員同士が互いに高まり合いながら学級経営を見直していく必要があります。また、学級をチェックする時期やチェックしたことの生かし方を考える等、見直しを持つことも大切です。

■その2 いじめ発見のチェックポイント（学校用）

- 遅刻・欠席が増える。
- 始業時刻ぎりぎりの登校が目立つ。
- 表情がさえず、うつむきがちになる。
- 出席確認の際、声が小さい。ぼんやりしていることが多い。
- 持ち物が紛失したり、落書きされたりする。
- 忘れ物が多くなる。
- 用具・机・椅子等が散乱している。
- 周囲が何となくざわついている。
- 一人だけ遅れて教室に入る。
- 席を替えられている。
- 頭痛・腹痛を頻繁に訴える。
- 保健室によく行くようになる。
- グループ分けで孤立しがちである。
- 正しい答えを冷やかされる。発言すると周囲がざわつく。
- テストの成績が急に下がり始める。テストを白紙で出す。
- 教室や図書室で一人である。
- 今まで一緒だったグループからはずれている。
- 訳もなく階段や廊下を歩いていたり、用もないのに職員室に来たりする。
- 友だちと一緒にいても表情が暗い。オドオドした様子で友だちについていく。
- 理由もなく服を汚していたり、ボタンが取れていたたりする。
- 机を寄せて席を作ろうとしない。
- その子どもが配膳すると嫌がられる。
- 食べ物にいたずらされる。（盛りつけをしない。わざと多く盛りつける。）
- 食欲がない。
- その子どもの机や椅子だけが運ばれず、放置されている。
- その子どもの机や椅子をふざけながら蹴ったり、掃除用具で叩いたりする。
- 他の子どもと一人離れて清掃している。
- 皆の嫌がる分担をいつもしている。
- 目の前にゴミを捨てられる。
- 下校が早い。あるいはいつまでも学校に残っている。
- 玄関や校門付近で不安そうな顔をしてオドオドしている。
- みんなの持ち物を持たされている。
- 通常の通学路を通らずに帰宅する。
- 靴や鞆、傘など持ち物が紛失する。靴箱にいたずらされる。
- 教科書や机、掲示物にいたずら書きをされる。
- 叩かれる、押される、蹴られる、突かれるなど、ちょっかいを出される。
- 独り言を言ったり急に大声を出したりする。
- 教師と視線を合わさない。話す時に不安そうな表情をする。
- 宿題や集金などの提出が遅れる。
- 刃物など、危険な物を所持する。

■その3 学校における教師の人権感覚チェックリスト

- 一人一人の顔を見て、名前に敬称を付けて呼んでいますか。
- 欠席や遅刻を早めに把握し、対処していますか。
- 授業の開始・終了時刻を守っていますか。
- 空席の児童生徒の確認をしていますか。
- 遅刻した児童生徒や前日に欠席・早退の確認をしていますか。
- 誰もが設備・器具等を公平に使えるよう配慮した児童生徒に言葉かけをしていますか。
- 教師の期待とずれた児童生徒の答えの発信をしていますか。
- 交友関係を尊重しようとしていますか。また、「どうしてこんなことができないのか」などと自尊心を傷つけるような言い方をしていませんか。
- 児童生徒の交友関係を把握していますか。
- 仲間はずれや嫌がらせ、暴力などを把握し、すぐに対処していますか。
- 児童生徒の失敗があった時、失敗に笑う者がいたら黙認せず注意していますか。
- 「いただきます」「ごちそうさま」など食材になった動植物のいのちや調理した人への感謝の言葉をしっかりとさせていますか。
- 児童生徒同志の相手を罵倒する言葉や暴言、あだ名を見過ごし、黙認していませんか。
- 配膳や片づけ等でいやな思いをする児童生徒がいないように気を配っていますか。
- 児童生徒の話を親身に聞いていますか。
- 児童生徒を指導する際、人格を否定するようなことをしてしまうことはありませんか。
- 清掃時間が始まったら素早く担当場所へ行き、一緒に清掃を行っていますか。
- 失敗が多い児童生徒を先入観で悪く評価していませんか。
- いつも楽な仕事ばかりしている児童生徒や、大変な仕事を押しつけられている児童生徒がいないように気を配っていますか。
- 兄弟姉妹と比べて、ほめたりけなしたりしていませんか。
- 児童生徒の欠点を見つけようとせず、よさに目を向けるように努力していますか。
- 教室や廊下の黒板や掲示物に落書きはないか気をつけていますか。
- 失敗した児童生徒のことを、例として終わりの会・放課後・部活動で話してはいませんか。
- 「がんばれ」ではなく「がんばっているね」など児童生徒の努力を認める言葉かけに心がけていますか。
- 明日の意欲につながるような言葉かけをしていますか。
- 部活動で、行き過ぎた上下関係はないか気をつけていますか。

その他

- 文書や懇談会などで使う言葉について配慮していますか。
- 個人情報の管理はしっかりできていますか。

■その4 いじめ発見のチェックポイント

いじめへの対応で大切なことは、いじめの兆候に早く気づき、早期に対応を図ることです。学校で注意しておきたい「いじめのサイン」としては、次のようなものがあげられます。教師は、一人一人の子どもが救いを求めて発する小さなサイン（言葉や表情、しぐさ）を見逃さずに、早期に対応することが大切です。

(1) いじめが起こりやすい・起こっている集団

- 朝いつも誰かの机が曲がっている。
- 掲示物が破れていたり落書きがあつたりする。
- 班にすると机と机の間に隙間がある。
- 授業中、教職員の見えないように消しゴム投げや手紙のやりとりなどをして
いる。
- 教職員がいないと掃除がきちんとできない。
- 自由にグループ分けをさせると特定の子どもが残る。
- 些細なことで冷やかしたりするグループがある。
- 学級やグループの中で絶えず周りの顔をうかがう子どもがいる。
- 自分たちのグループだけでまとまり、他を寄せ付けない雰囲気がある。
- 特定の子どもに気を遣っている雰囲気がある。

(2) いじめている子

- 他の子どもに対し威嚇する表情をする。
- グループで行動し、他の子どもに指示を出す。
- 特定の子どもにのみ強い仲間意識をもつ。
- 活発に活動するが他の子どもにきつい言葉を使う。
- ずるいところがある。
- 家や学校で悪者扱いされていると思っている。
- 他人は自分より幸せそうだと思っている。
- 多くのストレスを抱えている。
- 教職員の言動を素直に受けとらない。
- 教職員によって態度を変える。
- あからさまに教職員の機嫌をとる。

(3) いじめられている子

日常の行動・表情の様子

- 顔色が悪く、元気がない。
- 遅刻・欠席が増える。
- 早退や一人で下校することが増える。
- ときどき涙ぐんでいる。
- おどおどしている。
- 下を向いて視線を合わせようとしない。
- 身体の具合は悪くないが保健室に行きたがる。
- 友だちに悪口を言われても言い返さないで愛想笑いをする。
- いつもみんなの行動を気にし、目立たないようにしている。

授業中・休み時間

- 発言すると友だちから冷やかされたり皮肉を言われたりする。
- 教職員がほめると冷やかされたり、陰口を言われたりする。
- グループ分けで孤立しがちである。
- 学習意欲が減退し、忘れ物が増える。
- 一人でいることが多い。
- 教職員の近くにいたがる。

昼食時間

- 食べ物にいたずらされる。
- 他の子どもの机から机を少し離して食事をしている。
- 食事の量が減ったり食べなかったりする。

清掃時間

- 一人で掃除をしていることが多い。

その他

- 持ち物が壊されたり、隠されたりする。
- 服に靴の跡がついていたり、破れていたりする。
- 持ち物や机、ロッカーなどに落書きをされる。
- トイレなどに個人を中傷する落書きが書かれる。
- 手や足にすり傷やあざがある。
- けがの状況と本人が言う理由が一致しない。
- 理由もなく成績が突然下がる。
- 不必要なお金を持ったり、友達におごったりするなどする。

■その5 自分のクラスを見直すチェックポイント

① 年度当初

- いじめは人権侵害であり、絶対に許さないという話をしましたか。

② 日々の観察

- 毎日、子ども一人一人の表情に気を配っていますか。
- 子どもの服装や素ぶりの変化に気を配っていますか。
- 机の並びや掲示板、教室内のゴミなどに気を配っていますか。

③ 教育活動全般

- 日々の学校生活の問題を取り上げ、人としての善悪について考えさせていますか。
- どの子に対しても「認める」ことや「ほめる」ことに心がけていますか。
- 子どもの様子が少しでもいじめが疑われる時には、忙しくても優先して行動していますか。
- 学級づくりで悩んだとき、一人で抱え込んでいませんか。
- いじめのことで保護者と連絡を取るとき、電話だけですませていませんか。
- 地域での体験などを通して、自分の存在意義を考えさせていますか。
- 地域からの情報を得る機会を積極的につくっていますか。